

「活動の概要と研究成果」

NO.J2303

活動題目:1960年代以来インドネシアにおける解放の神学と華人神学の伝統の生成に関する人類学的研究

所属:京都大学大学院文学研究科・社会学専修・博士後期課程

氏名:王作造

本研究では、華人コミュニティの空間性が宣教史の構造に重要な役割を果たしていると考え、1960年代以来の歴史的文脈の中で、インドネシア華人による神学的理解と実践について考察する。近年、国際化に伴い、華人研究は歴史研究を中心とした領域だけではなく、中国をはじめとするアジアの市場化や急激な経済的・政治的・文化的変容の中で、華人の動きに関する研究が緊急課題となっている。

しかしながら、インドネシア華人を対象とした研究はアイデンティティや文化回復に関するものが多く、儒教の再公認化をめぐるものがほとんどで、キリスト教への改宗に関するものは少ない。1960年代以降のインドネシアでは、さまざまな緊張関係が各地で噴出している。表面化している経済的・政治的闘争や排斥はエスニック紛争とは言えないが、20世紀初頭から展開されているナショナリズムの進展に伴い、キリスト教の普遍性によって「キリスト＝ナショナリズム」の可能性が提示されたこともある。さまざまな宗教勢力間の力関係と競争は、その背景にある支持勢力の対立だけでなく、急速な近代化とも関連している。インドネシアの近代化に伴い、地球規模での情報技術の流れと交流が民族文化の再構築を促した。そのため、華人文化は急速な近代化によってさらに流動化している。1965年の政変とその後の大虐殺で多くの華人が迫害された歴史があり、その中では解放の神学が華人キリスト教徒のアイデンティティと抵抗の源泉となった。

新聞記事や研究論文などに多く見られる社会的偏見と排斥に満ちた環境に住む華人は、生き抜くための生活様式を発展させるために歴史的な生活空間について深く考察せざるを得ない。